

2018年に動員20万人を超える大ヒット
日本中を深い感動で包んだあの物語には続きがあった!

映画上映会 & トークショー

(字幕あり)

参加費無料 要申込

アルツハイマー病を患った母を
98歳になった父が懸命に介護する日々。
そんな中、新型コロナウイルスの波が押し寄せ、
事態は急変する。



ドキュメンタリー映画



監督・撮影・語り
&ひとり娘
信友直子

ぼけますから、 よろしく願います。

～おかえりお母さん～

母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道

手話
通訳あり

& 信友直子さんのトークショー (監督・撮影・ひとり娘)



© 萩原桂太

Profile [プロフィール]

- 1961年 広島県呉市生まれ
- 1984年 東京大学文学部英文科卒業
- 2009年 自らの乳がん闘病をまとめたセルフドキュメンタリー番組「おっばいと東京タワー～私の乳がん日記～」放送
- 2018年 認知症の母と老老介護する父を娘の視点で描いたドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしく願います。」で映画監督デビュー
- 2022年 第2弾映画「ぼけますから、よろしく願います。～おかえり お母さん～」公開

お申込み 受付時間 / 8時30分～17時15分(月～金)

◎電話またはファックス
宇和島市地域包括支援センター (宇和島市役所22番窓口)
TEL.0895-49-7019(直通) FAX.0895-24-1126



先着 各200名

©2022「ぼけますから、よろしく願います。～おかえり お母さん～」製作委員会

【日時】令和5年12月23日(土)

- 午前の部 10時～12時30分(受付9時30分)
- 午後の部 14時～16時30分(受付13時30分)

●場 所 パフィオうわしま1階ホール 宇和島市鶴島町8-13

人が生きて老いてゆく先には、
必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして
感じてもらえる物語になったと思います。



信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)

ロコミが広がり異例のロングランになった
『ぼけますから、よろしくお願ひします。』(18)

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願ひします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——



—2018年—
父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためにと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。



ぼけますから、
よろしくお願ひします。
～おかえりお母さん～

監督・撮影・語り：信友直子 プロデューサー：濱潤 大島新 堀治樹 制作プロデューサー：稲葉友紀子 編集：目見田健 撮影：南幸男 河合輝久
音響効果：金田智子 ライン編集：池田聡 整音：富永恵一 製作プロダクション：スタッフラビ 製作：フジテレビ ネットゲン 関西テレビ 信友家 配給・宣伝：アンブラグド
© 2022「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえり お母さん～」製作委員会 2022年/日本/ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.0ch

bokemasu.com @bokemasukara2

予告編はコチラ↓



予告編

ぼけますから、よろしくお願ひします。
～おかえりお母さん～